



特定非営利活動法人 日本歯周病学会

2017年 第2号 (11月)

ニュースレター

〒170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内

TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341 <http://www.perio.jp/>

発行人 栗原英見 編集 広報委員会

【主要コンテンツ】

春季学術大会関連のご案内 認定資格申請のお知らせ JSP/JACP ポスター賞
各賞・助成等の選考結果と募集 2項・3項理事選出のご案内 若手研究者の集い開催報告

京都宣言「歯周病撲滅に向けて！」の意義を考える



理事長 栗原英見

先日、西村英紀教授が主催された第60回春季日本歯周病学会学術大会の理事会や総会において、理事長として「歯周病撲滅に向けて！」という大目標を掲げました。歯周病を撲滅することの意義は、単に口腔の問題を解決するだけではなく、国民の健康増進に大きく貢献し、医療経済的にも社会に大きく貢献できます。私がこのことを改めて考えるきっかけとなったのは、沼部幸博教授が幕張メッセで開催した学術大会のテーマ「罹患率80%への挑戦！」です。確かにいつまでも“罹患率80%”といっているなあと感じました。Periodontal medicineがScienceとして歯科界に受け入れられ、世の中に広がっていくにつれて、従来の歯周病治療のおかれている位置が大きく変化しました。これまで、歯科医療者や歯周病治療を専門としている者のなかだけで議論していたことが、国民や他の医療者（とりわけ糖尿病専門医）から、患者の歯周病の程度を示せ、歯周治療によって何がどのように変わったのかをわかりやすく示せ、という要求が高まっています。疫学研究や動物実験だけでなく、日常の臨床において、目の前にいる患者の現状を医師に的確に伝えること、

それを医師が共通言語として理解することが要求されています。すなわち、“内向き”の対応だけでなく、“外向き”の対応が必要になっています。江戸時代までの“鎖国”が、明治維新で“開国”したような状況です。今、歯周病学会が患者の歯周病を一つの塊として評価する“新しい指標”作りに取り組んでいるのはこの流れにあります。また、Periodontal medicineが受け入れられれば受け入れられるほど、歯周病を治すことへの要求が高まり、治すことへの責任が大きくなります。歯周病は、「糖尿病と関連します」「血管障害と関連します」というたびに、それほど重要であるのなら、責任をもって歯周病を治してくださいということになります。責任をもつのは、私たち日本歯周病学会しかありません。さらに超高齢社会になった日本において、今私たちがどうすべきか？「歯周病を撲滅する！」という、ある意味あたりまえのことを声に出すことによって、これまで自分たちのこととしてあまり真剣に考えてこなかった問題が見えてきます。“高度化した考え方や治療技術”をどのように普及していくのか？高齢者の歯周治療はどうするのか？若年層への歯周病予防の取組みをどうするのか？ 私たちには“歯周病撲滅”に対して学会として責任がありますが、同時に自分たちだけでは何もできないことは明らかです。産官学の関係諸団体・組織とどのように協力していくかが重要です。60周年記念大会はそのキックオフとなる記念大会にしたいと考えています。「歯周病撲滅！」と声に出し、その意義を“京都宣言”では社会に向けて大きな声で発信しましょう。

60 周年記念京都大会における参加受付方法について

60 周年記念京都大会（12 月 16・17 日）より参加受付方法が変更になります。事前・当日参加登録、いずれの場合も当日、会員証が必要となりますので必ずご

持参いただきますようお願い申し上げます。詳細は学術大会ホームページをご確認ください。

第 61 回春季日本歯周病学会学術大会のご案内

第 61 回春季日本歯周病学会学術大会を下記のとおり開催いたします。多数の皆様のご参加とご発表をお願いいたしたく、ご案内申し上げます。

大会長 齋藤 淳

1. 会期 平成 30 年（2018 年）5 月 31 日（木）、
6 月 1 日（金）、6 月 2 日（土）
2. 会場 京王プラザホテル（東京都新宿区）
3. テーマ 歯周病治療がもたらす QOL 向上
4. 日程およびプログラム概要

5 月 31 日（木）大会前日：認定医筆記試験、各種委員会、理事会、理事懇親会、若手研究者の集い

6 月 1 日（金）大会 1 日目：特別講演Ⅰ（慶應義塾大学 岡野栄之先生）、シンポジウムⅠ、Ⅱ、学会学術賞受賞記念講演、国際セッション（口演）、一般発表（口演・ポスター）、総会・評議員会・表彰式、ランチョンセミナー、編集連絡委員会、企業展示、侵襲性歯周炎患者データベース化検討委員会

6 月 2 日（土）大会 2 日目：特別講演Ⅱ（ミラノ大学 Giulio Rasperini 先生）、シンポジウムⅢ、最優秀・優秀臨床ポスター賞授賞式、認定医・専門医教育講演、倫理委員会企画講演、歯科衛生士シンポジウム、ベストハイジニスト賞授賞式、歯科衛生士教育講演、一般発表（口演）、歯科衛生士発表（口演・ポスター）、臨床（認定医・専門医）ポスター、ランチョンセミナー、市民公開講座、企業展示

上記プログラム内容には変更が生じる場合がありますので、詳細は学術大会ホームページ <http://web.apollon.nta.co.jp/jsps61/> をご覧ください。

5. 参加登録費（事前および当日参加登録）

	事前	当日
正会員（歯科医師・医師ほか）	5,000 円	7,000 円
準会員（上記以外）	3,000 円	4,000 円
非会員（歯科医師・医師）	10,000 円	12,000 円
非会員（上記以外）	5,000 円	7,000 円
学生（歯学部・歯科衛生士学生）	当日のみ	1,000 円

事前参加登録期間

平成 29 年 12 月 25 日（月）正午より

平成 30 年 4 月 12 日（木）正午まで

※宿泊は学術大会ホームページでもご案内予定ですが、宿泊施設の確保は早めに準備くださいますようお願い申し上げます。また、大会参加時は、会員カードが必要となりますので、必ずご持参ください。

6. 演題登録

学術大会ホームページよりご登録ください。

抄録作成については、ホームページ記載の要項をご確認ください。

演題および抄録登録期間

平成 29 年 11 月 10 日（金）正午より

平成 30 年 1 月 10 日（水）正午まで

詳細は大会ホームページにてご確認ください。

第 61 回春季日本歯周病学会学術大会

準備委員長 富田幸代

（東京歯科大学歯周病学講座）

大会運営事務局

〒530-0001 大阪市北区梅田 1 丁目 11 番 4 号

大阪駅前第 4 ビル 5 階

株式会社日本旅行 西日本 MICE 営業部

TEL：06-6342-0212 FAX：06-6342-0214

E-mail：jsps61@nta.co.jp

学術大会 HP：http://web.apollon.nta.co.jp/jsps61/

第 61 回春季日本歯周病学会学術大会臨床ポスター (認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター) 発表申込のご案内

学術大会における臨床ポスター（認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表の演題募集は、一般演題とは別になります。下記の要領でお申し込みいただくことになりますが、受付は学術大会ホームページからのみになりますのでご注意ください。

演題申し込みおよび抄録作成方法などの詳細はサイト上で公開予定です。認定医・専門医と歯科衛生士症例のポスターカテゴリーごとに必ずご確認ください。なおオンラインでの申し込みが不可能な方は、第 61 回春季日本歯周病学会学術大会運営事務局（FAX:06-6342-0214, E-mail: jsps61@nta.co.jp）までお問い合わせください。

1. 演題発表資格

いずれのカテゴリーとも、筆頭発表者が学会認定資格（認定医・歯周病専門医あるいは認定歯科衛生士）を有している必要はありませんが、筆頭発表者と発表における責任者は本学会会員に限ります。また、本学術大会における筆頭発表は 1 名 1 演題までといたします。詳細は学術大会ホームページをご参照ください。

2. 演題申込および抄録登録期間

平成 29 年 11 月 10 日（金）より

平成 30 年 1 月 10 日（水）まで（締切厳守）

※登録期間終了日はアクセス集中によるエントリー遅延・不具合が起りやすいので、それ以前の早めの時期に登録をお済ませください。

演題申込時には学術大会ホームページにて、留意事項を必ずご確認のうえで応募くださいますようお願い申し上げます。留意事項を逸脱する行為および演題内容については、発表をお断りすることがあります。**特に「国内未承認薬・材料・機器の使用」「適応外使用」「未承認治療法」に係る症例は臨床ポスターとしての発表は不可です。また臨床研究発表では所属機関の倫理委員会等の承認、症例報告の場合は患者の同意を得**

ていることをポスターに明記する必要がありますので、ご注意ください。

3. 臨床ポスター発表の特典

臨床ポスター発表を行うと、筆頭発表者に対して資格申請・更新に必要な所定の研修単位が付与されます（専門医の申請時、および認定医と専門医の更新時の生涯研修単位における業績発表単位は 10 単位、認定歯科衛生士の申請時・更新時の生涯研修単位における業績発表単位は 10 単位）。

4. 臨床・症例ポスターの発表様式

パネルサイズは高さ 210 cm × 幅 90 cm といたします。表示形式および表記様式、ポスター討論についての留意事項を学術大会ホームページにてご案内いたしますのでご確認ください。**演題番号の個所や顔写真の掲示場所、承認や同意の記載場所、ポスター討論の時間等細かく規定されていますので必ずご確認ください。**なお、演題登録後における抄録の変更や討論時の発表者交代は認められません。ただし、なんらかの事情で発表ができなくなった場合は運営事務局にご連絡ください。

5. ポスター賞について

認定医・専門医優秀臨床ポスター賞は選考対象となることを希望された発表が、ベストハイジニスト賞は歯科衛生士ポスター発表として演題登録いただいたすべての発表が選考対象となります（ただし、留意事項を遵守されていない場合は対象外）。受賞発表および表彰は次同学術大会（第 61 回秋季日本歯周病学会学術大会）にて行います。その際、受賞ポスターは再掲しますので、発表ポスターの保管にご協力願います。

専門医委員会委員長 高柴正悟

認定医委員会委員長 吉成伸夫

歯科衛生士関連委員会委員長 坂上竜資

認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ

日本歯周病学会では、本年度の認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士の申請と更新、ならびにその研修施設および学会認定研修会の申請を受け付けます。各資格についてのタイムスケジュールは以下のとおりです。

1. 認定歯科衛生士申請（第26回認定歯科衛生士認定審査）および更新
平成29年12月18日（月）：受付開始
平成30年1月12日（金）：締め切り（消印有効）
平成30年1月頃：申請および更新に関する書類審査会開催
平成30年3月頃：（申請者のみ）ケースプレゼンテーション
平成30年5月31日（木）：申請・更新合格者を理事会で承認
平成30年6月1日（金）：第61回春季学術大会（東京）時に合格発表
平成30年7月：認定歯科衛生士認定証発行
2. 専門医・指導医申請（第58回専門医・指導医認定審査）および各資格の更新
平成30年1月9日（火）：受付開始
平成30年1月26日（金）：締め切り（消印有効）
平成30年2月頃：申請および更新に関する書類審査会開催
平成30年3月頃：（専門医申請者のみ）専門医認定試験（ケースプレゼンテーションと口頭試問）開催
平成30年5月31日（木）：各資格申請・更新合格者を理事会で承認
平成30年6月1日（金）：第61回春季学術大会（東京）時に合格発表
平成30年7月：専門医・指導医認定証発行
3. 認定医申請（第19回認定医認定審査）および更新
平成30年1月29日（月）：受付開始
平成30年2月16日（金）：締め切り（消印有効）
平成30年3月頃：申請および更新に関する書類審査会開催
平成30年5月31日（木）：（申請者のみ）筆記試験

会場：京王プラザホテル（東京）

申請・更新合格者を理事会で承認

平成30年6月1日（金）：第61回春季学術大会（東京）時に合格発表

平成30年7月：認定医認定証発行

⇒平成30年1月1日より、認定医申請の際に、本学会が行う倫理に関する講演の受講（1回以上）が義務付けられます。

以上の各資格の申請・更新手続き、申請書類や規則等については、学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）をご確認ください。ホームページに記載された方法に準拠しない申請・更新手続きは無効となります。なお、規則・細則は改訂されることがありますので、ホームページにおける申請受付前1カ月以内の最新の記載内容を確認してください。

研修施設申請・更新のお知らせ

認定医、専門医を養成する歯科医療機関を認定する制度です。申請・更新受付とも期間は平成30年1月9日（火）～1月26日（金）（消印有効）です。申請・更新手続きについては、学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）に記載しておりますので、これに従い手続きを行ってください。

認定医、専門医・指導医更新に関わる研修単位を取得できる専門医委員会が認めた歯周病に関する学会および研修会申請についてのお知らせ

歯周病学に関する専門的研修に寄与する学会、指導医等主催による任意の研修会について、研修単位取得対象研修会として認定する制度です。申請期間は平成30年1月9日（火）～1月26日（金）です。手続きの方法等を学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）に記載しておりますので、これに従い手続きを行ってください。平成30年3月末頃までに専門医委員会の審査による認定の諾否を通知いたします。

吉江弘正先生のアメリカ歯周病学会名誉会員推挙のお知らせ

9月9～12日にボストンで行われました第103回アメリカ歯周病学会（AAP）にて、本学会第19代理事

長を務められた吉江弘正先生が同学会名誉会員に推挙されました。このたびの榮譽をお慶び申し上げます。

JSP/JACP ポスター賞

昨年9月に開催されました第102回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会2016年大会（AAP-JSP/JACP サンディエゴ大会）のJSP/JACP ポスターセッションで発表いただいた演題のうち、各部門における受賞者をご紹介します。

【General/Basic Research 部門】

最優秀賞

倉治竜太郎

（日本歯科大学生命歯科学講座
生命歯学部歯周病学講座併任）

Porphyromonas gingivalis induced periodontitis exacerbates NASH progression in rat



【General/Clinical Research 部門】

最優秀賞

吉成伸夫

（松本歯科大学歯科保存学講座
（歯周））

Analysis of the relationship between periodontal disease and diabetes mellitus



優秀賞

関 辰明

（昭和大学歯学部歯周病学講座）

Comprehensive analysis of gene expression in the junctional epithelium from bioengineered tooth



優秀賞

竹立匡秀

（大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座（口腔治療学教室））

Periodontal tissue regeneration by adipose tissue-derived multi-lineage progenitor cell transplantation



アマル シュジャ アディン

（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野）

rhFGF-2/gelatin- β TCP in the treatment of gingival recessions in dogs



優秀賞

色川大輔

（東京歯科大学歯周病学講座）

GTR using xenogeneic bone-mineral with collagen membrane: A multicenter study



【Case Report 部門】

最優秀賞

関野 仁

(東京都立心身障害者口腔保健センター)

One-stage full-mouth disinfection for patients with severe intellectual disability



優秀賞

岩田光弘

(さくらデンタルクリニック)

Five-year prognosis of a patient with malocclusion who underwent comprehensive treatment for severe periodontitis



優秀賞

土田晃太郎

(医療法人誠英会土田歯科医院)

Regenerative procedures for root canal perforations and bone resorption



優秀賞

増田勝実

(医療法人社団明德会福岡歯科)

Esthetic correction of maxillary anterior ridge deformity, caused by failed implant



【Dental Hygiene 部門】

最優秀賞

坂井雅子

(日本大学歯学部附属歯科病院 歯科衛生室)

A case of chronic periodontitis improved by comprehensive periodontal therapy



優秀賞

石井里加子

(東京都立心身障害者口腔保健センター)

現：九州看護福祉大学看護福祉学部口腔保健学科)

Periodontal management of Down syndrome with hypersensitivity : A 22-year case report

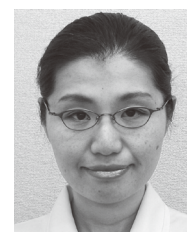


優秀賞

佐藤昌美

(池田歯科クリニック)

The efficacy of non-surgical treatment on severe gingival recession



各賞および奨学金助成募集のご案内

下記の募集を行います。いずれも学会ホームページにて詳細をご確認ください。

1. 日本歯周病学会奨励賞 (2017 年度)

奨励賞は、歯周病学の発展に寄与する学術論文を発表した若手研究者を表彰するために、本学会名誉会員見明 清 東京歯科大学名誉教授の寄付金を基金として、1995 年に設けられました。ヒューフレディ株式会社のスポンサーシップを得ており、本賞（奨励賞楯）のほかに副賞（500 ドル相当）と楯（Hu-Friedy Award）が贈られます。4 名以内が選考されますので、学会ホームページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

<http://www.perio.jp/member/award/encouragement.shtml>

申請期間：2017 年 11 月 1 日～12 月 20 日

申請書類提出用 ID：JSP-2017

2. 日本歯周病学会教育賞 (2017 年度)

教育賞は、歯周病学教育の発展に寄与した課題を表彰することを目的としております。表彰対象は、歯周病学の教育の発展に寄与する課題です。応募資格は、課題代表者が本学会の会員であること、過去に本賞を受けたことがないことが条件です。なお、本賞は副賞として医歯薬出版株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（表彰状）のほかに、副賞（5 万円）が贈られます。学会ホームページの応募要項をご確認のうえ、奮ってご応募ください。なお本賞は応募を郵送で受け付けます。

<http://www.perio.jp/member/award/education.shtml>

3. 奨学金助成 (2017 年度募集 2018 年度実施)

日本歯周病学会は、次世代の歯周病学研究の質の向上を支援するために、若手研究者に対する奨学金助成を行います。本奨学金は、本学会が 2011 年度から基金として準備し、2013 年度に設置されたものです。助成者は、申請者から 2 名以内（1 件の上限は 100 万円）が選考されます。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規程をご一読のうえ、若手研究者の皆様には奮ってご応募ください。

<http://www.perio.jp/member/award/scholarship.shtml>

申請期間：2017 年 11 月 1 日～12 月 20 日

申請書類提出用 ID：JSP-2017

4. Young Investigator Award (2018 年度)

本賞は、学術大会発表において優れた研究を発表した若手研究者を表彰することを目的としております。表彰対象は、本学会当該年度の日本歯周病学会 Young Investigator Award に応募し、学術大会に発表された口頭発表とします。本賞は副賞としてサンスター株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（賞状）のほかに、副賞（Sunstar Award）と賞金が贈られます。応募の条件が規定されていますので、学会ホームページの応募資格（2018 年 2 月 1 日までに掲載予定）をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

<http://www.perio.jp/member/award/young.shtml>

申請期間：2018 年 2 月 1 日～3 月 2 日

申請書類提出用 ID：JSP-2018

歯科衛生士教育講演会・臨床研究会のご案内

歯科衛生士教育講演会

今年度の教育講演 B は終了しました。A（学術大会時）ならびに D（臨床研修会時）について、詳細はホームページで通知いたします。

<http://www.perio.jp/member/>

臨床研修会

平成 30 年 1 月 28 日（日）に、三重県歯科医師会館（〒514-0003 三重県津市桜橋 2 丁目 120-2）にて第 4

回中部地区臨床研修会の開催を予定しております。早期から始める歯周治療と再生療法の有用性をコンセプトに特別講演や“リグロス®による歯周組織再生療法”に関するセミナー等を企画し、鋭意準備中です。会員に限らず非会員の方も含め多くの歯科医師・歯科衛生士の皆様のご参加をお待ちしております。詳細は決定次第、ホームページで通知いたしますので、お知り合いの方にもお声掛けいただければ幸甚に存じます。

<http://www.perio.jp/member/>

各賞・助成選考結果

各賞・助成の概要につきましては、学会ホームページに掲載しております。なお対象者および受賞者の所属は、選考・受賞時のものです。

学会賞（2016 年度）

受賞者氏名は以下のとおりです。

永田俊彦

（徳島大学大学院医歯薬学研究
部歯周歯内治療学分野教授）



原 宜興

（長崎大学大学院医歯薬学総合
研究科歯周疾患病因・再生解析
学分野教授）



船越栄次

（船越歯科歯周病研究所院長）



奨励賞（2016 年度）

受賞者氏名と応募論文題目（発表誌名）は以下のとおりです。

高橋直紀

（新潟大学大学院医歯学総合
研究科高度口腔機能教育研究セン
ター）

Neuronal TRPV1 activation
regulates alveolar bone resorp-
tion by suppressing osteoclasto-
genesis via CGRP (Scientific Reports)



芝 多佳彦

（東京医科歯科大学大学院医歯
学総合研究科歯周病学分野）

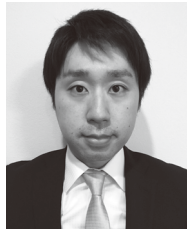
Distinct interacting core taxa in
co-occurrence networks enable
discrimination of polymicrobial
oral diseases with similar symp-
toms (Scientific Reports)



東 克匡

(九州大学病院歯周病科)

Sphingosine-1-phosphate/
S1PR2-mediated signaling trig-
gers Smad1/5/8 phosphoryla-
tion and thereby induces Runx2
expression in osteoblasts
(Bone)



優秀ポスター賞

斎田寛之

(埼玉・斉田歯科医院)

「非外科で対応した重度慢性歯
周炎症例」



吉本哲也

(University of Missouri-Kan-
sas City, Department of Oral
and Craniofacial Science)

*Aggregatibacter actinomycetem-
comitans* outer membrane pro-
tein 29 (Omp29) induces TGF-
 β -regulated apoptosis signal in human gingival
epithelial cells via fibronectin/integrin β 1/FAK
cascade (Cellular Microbiology)



ベストハイジニスト賞 (第59回秋季学術大会)

受賞者と受賞演題は以下のとおりです。

鈴木佳奈

(岩手・ゆいとぴあ歯科医院)

「歯周基本治療により改善した
広汎型重度慢性歯周炎患者の一
症例」



教育賞 (2016年度)

受賞者と受賞演題は以下のとおりです。

町頭三保

(鹿児島大学病院歯周病科)

「歯周基本治療のための新たな
教育用模型の開発」

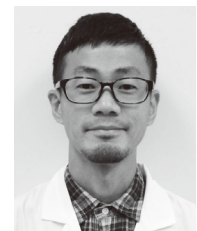


研究者育成ファンドによる奨学金助成

対象者氏名は以下のとおりです。

橋高瑞穂

(University of Missouri-Kan-
sas City, Department of Oral
and Craniofacial Sciences)



優秀臨床ポスター賞 (第59回秋季学術大会)

受賞者と受賞演題は以下のとおりです。

最優秀ポスター賞

土岡弘明

(千葉・土岡歯科医院)

「広汎型重度慢性歯周炎患者に
対し、歯周-矯正治療を行った
17年経過症例」



Jorge Luis Montenegro Raudales
(長崎大学大学院医歯薬学総合
研究科・歯周病学分野)



Young Investigator Award

受賞者と受賞演題は以下のとおりです。

池上久仁子

(大阪大学歯学部附属病院口腔
治療・歯周科)
「歯根膜の老化性炎症における
細胞老化の役割」



永田 瑞

(東京医科歯科大学大学院医歯
学総合研究科歯周病学分野)
「歯根膜幹細胞培養上清は歯周
組織再生を促進する」



次期理事（2項・3項理事）選出についてのご案内

特定非営利活動法人日本歯周病学会定款細則により、次期理事の選出についてご案内申し上げます。

(特定非営利活動法人日本歯周病学会定款細則より抜粋)

第7条 理事の選出はこの細則に基づいて理事会が行う。

1. 理事は以下の基準のいずれかを満たす者とする。
 - 1) 歯科大学および大学歯学部において歯周病学を担当する教授
 - 2) 3年以上の評議員経験者で、歯周病学関連の研究教育に従事する教授
 - 3) 5年以上の評議員経験者で歯周病学関連の診療教育に従事する以下の基準のいずれかを満たす学外臨床医（主たる勤務が大学・大学病院の会員は除く）
 - ①日本歯周病学会指導医の資格を有している者
 - ②歯周病学領域の卒後研修などにおいて、指導的立場から歯科医師の診療および教育などに直接従事していて、業績がありその経験年数が10年以上ある者
2. 理事の定員は以下のように定める。

前項の1), 2), 3) に該当する理事はそれぞれ29大学各1名、15名以内、10名以内とする。
3. 第7条1項の2) および3) の理事の選出は、別に定める内規に基づいて行う。
4. 理事は任期中に担当講座を辞任した場合には、辞任時に理事の任期を解くものとする。なお、第7条1項3) の理事にあつては満70歳を定年とし、理事の任期中に70歳になった場合、その年度で任期満了とする。

上記のうち、第7条1項の2) および3) に該当する理事につきましては、各任期の最終年度に、内規に則し次期理事の選任を行います。2) に該当する理事15名、および3) に該当する理事10名（ただし1大学からの推薦枠は2名まで）を公募いたします。なお、次期理事の任期は平成31年4月1日より平成33年3月31日になっております。

なお、理事選出は、理事選任に関する内規に則って行われますので、応募は現理事による自薦または他薦いずれでも結構です。また提出書類は、履歴・業績・推薦書等ですが、書式につきましては必ず学会事務局（口腔保健協会）にご確認、ご請求くださいますようお願い申し上げます。

応募締切は学会事務局宛に平成29年12月8日(金)消印有効<レターパック510(書留)またはそれに準ずる宅配便を利用のこと>とさせていただきます。

選出は、選挙管理委員会での資格審査後、以下のスケジュールで現理事の郵送による投票、理事会による承認を経て次期理事が決定する予定です。

【次期理事選挙のスケジュール】

平成29年12月8日(金)

公募締切(消印有効)

選挙管理委員会による資格審査

平成30年1月下旬

理事候補者の公示ならびに理事投票用紙の送付

選挙権者は理事(理事選任に関する内規1-II-6-

(4))

選挙公示日は2月1日(木)

平成30年2月8日(木)

投票用紙送付締切(必着)

選挙管理委員会による開票

平成30年5月31日(木)

理事会への選挙結果報告ならびに承認

平成30年6月1日(金)

総会への選挙結果報告ならびに承認

備考：次期理事長の選出につきましては、理事長候補
有資格者のうち立候補いただいた理事のなかから、
理事会(平成30年5月31日開催)における選挙をも
って選出いたします。結果につきまして

しては、総会(平成30年6月1日開催)以降に
お知らせいたします。

理事選挙管理委員長 高橋慶壮
理事選挙管理副委員長 三谷章雄
理事選挙管理委員 佐藤秀一、
北村正博、讃井彰一、中島貴子

応募書類請求ならびに送付先：日本歯周病学会事務局
〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル4階

(一財)口腔保健協会内
TEL：03-3947-8891 FAX：03-3947-8341

日本歯周病学会会誌のご案内

前回のNewsletter以降、刊行されました日本歯周病学会会誌に掲載されました論文をご紹介します。日本歯周病学会会誌は2015年よりオンライン化され、J-STAGEで閲覧できます。また、発刊に合わせてメールアラートを配信しておりますので、学会にメールアドレスを登録されていない会員各位におかれましては、本学会ホームページよりご登録をお願いします。

日本歯周病学会会誌

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/perio/-char/ja>

日本歯周病学会会誌 Vol. 59 (2017) No. 1

ミニレビュー

「エクソームシークエンスによる日本人侵襲性歯周炎の疾患関連遺伝子探索」

北垣次郎太、栢本梨沙、宮内静香、藤原千春、村上伸也

「明海大学病院歯周病科におけるインプラントの実態調査」

大塚秀春、申基喆

原著

「80歳地域住民における歯周病と糖尿病の生命予後への影響」

田上綾香、園木一男、秋房住郎、福原正代、栗野秀慈、角田聡子、邵仁浩、岩崎正則、安細敏弘

「LPS刺激下ヒト歯肉線維芽細胞に対する α -リポ酸事前添加による炎症性サイトカイン産生抑制効果の検討」

石井マイケル大宜、村檉悦子、五十嵐(武内)寛子、莊司洋文、沼部幸博

トピック紹介

「エナメルマトリックスデリバティブ由来新規骨形成剤ペプチドの有効性」

富永和也、竹内友規、本田秀太、岡村友玄、和唐雅博、田中昭男

症例報告

「関節リウマチ疾患のある広汎型重度慢性歯周炎患者に対し医科との連携を行った一症例」

永田鈴佳、池田康男

日本歯周病学会会誌 Vol. 59 (2017) No. 2

ミニレビュー

「歯周組織におけるインフラマソームの役割」

吉村篤利、Jorge Luis Montenegro Raudales, Ziauddin SM, 樋口賀奈子、原宜興

「コエンザイムQ10」

菅野直之

「多血小板血漿とそこから派生した血小板濃縮材料：再生医療に関与する歯科医が押さえておきたいポイント」

川瀬知之，渡辺泰典，奥田一博

症例報告

「歯周基本治療により改善した広汎型重度慢性歯周炎の一症例」

石原彰子

「ブラキシズムが関与した限局型慢性歯周炎患者に対し FMD 後に歯周組織再生療法を行った一症例」

華岡眞幸，華岡千佳子

日本歯周病学会会誌 Vol. 59 (2017) No. 3

総説

「歯周組織破壊における IL-1Ra の役割と治療薬への可能性」

石原裕一

「喫煙により増悪する歯周病の病態形成に関する基礎的研究」

柳田 学

ミニレビュー

「高血糖状態が骨髄由来幹細胞や歯根膜幹細胞の硬組織形成に与える影響」

嘉藤弘仁，田口洋一郎，山脇 勲，奥田麻貴子，小石玲子，野口正皓，山内伸浩，今井一貴，高橋幸達，

田中昭男，梅田 誠

「歯周病の発症と進行への miRNA の役割」

小方頼昌

原著

「糖代謝異常を有する切迫早産妊婦の絨毛膜組織での歯周病原細菌の検出」

中村 梢，中村利明，上塘正人，立石ふみ，橋口千琴，川俣和弥，波多江正紀，野口和行

トピック紹介

「Treponema denticola の病原性因子」

石原和幸

症例報告レビュー

「難治性の重度慢性歯周炎に対して抗菌療法を用いた一症例—細菌検査によるモニタリングの重要性—」

井原雄一郎，片山明彦，中川種昭

症例報告

「矯正治療による埋伏歯，低位唇側転位歯牽引での付着歯肉獲得について—早期の歯肉移植により安定した付着歯肉の獲得を得られた 2 症例—」

窪田道男，長島由紀

教育賞

「臨床実習後技能評価における学生によるペリオモデルを用いたスケーリング・ルートプレーニング時の歯肉縁下歯根面へのアクセスの検討」

鶴飼 孝，中村弘隆，吉永泰周，高森明子，尾崎幸生，白石千秋，吉村篤利，原 宜興

歯科衛生士コーナー

「歯科衛生士として必要な歯周組織検査 特にプロービング検査結果から得られる情報の応用について」

伊藤 弘

第 50 回「若手研究者の集い」開催報告

第 60 回春季日本歯周病学会学術大会開催にあたり，平成 29 年 5 月 11 日に福岡国際会議場にて第 50 回「若手研究者の集い」を開催いたしました。講師には九州歯科大学歯学部歯周病学分野の臼井通彦准教授をお迎えして「歯肉上皮を再考する～その多様性と生物学的役割～」と題した講演をしていただきました。

臼井先生は東京医科歯科大学ご出身で，大学院では骨研究の権威である野田政樹先生に師事され，主に骨代謝における Transducer of ErbB2 (Tob) の機能解析を中心に素晴らしい業績を挙げられ，その後も日本学術振興会特別研究員，さらに米国ロチェスター大学の病理学講座にポスドクとして留学され基礎研究を精力

的に進められました。帰国されてからは，昭和大学そして現在ご所属の九州歯科大学の歯周病学教室の教員として研究に加え，臨床・教育とさらにご活躍の場を広げられております。

講演はご自身のこれまでの大学生活とそれにまつわる興味深いエピソードに始まり，研究内容の変遷と発展ということでお話いただきました。トピックとしては歯周病治療に携わる歯科医にとって非常に馴染みの深い組織でありながら歯根膜・歯槽骨といった他の歯周組織に比べ，あまり行われてこなかった「歯肉」にフォーカスを当てた一連の研究結果について報告されました。



まず、歯肉上皮（付着上皮・口腔上皮）に発現する遺伝子を解析の結果、今まで細胞接着因子である laminin-5, integrin α 6 β 4, claudin, occludin や抗菌因子である β -defensin など報告されていますが、好中球が分泌する抗菌ペプチドでプロテアーゼを阻害することで、組織損傷に対して保護作用を示す Secretory leukocyte protease inhibitor (Slpi) が発現していることを新たに見いだされました。またグラム陰性菌の LPS により Slpi は誘導されるため、細菌の存在しない germ-free マウスの歯肉上皮における発現を免疫染色にて確認し、conventional マウス同様に確認され、Slpi は付着上皮の特異的マーカーになりうることを示唆されました。さらに Slpi 以外にも抗菌因子である calprotectin を構成する S100A8, S100A9 やケモカインである CXCL1, MIP-2 が付着上皮に強く発現していること、また一方で骨芽細胞や歯根膜細胞に発現し破骨細胞を分化・活性化させることが知られる RANKL (receptor of activator of NF- κ B ligand) が歯肉上皮細

胞に発現しており、TNF- α によって制御されていることを明らかにされました。そこでこの RANKL を発現する歯肉上皮細胞と破骨細胞前駆細胞であるマクロファージを共培養することにより、破骨細胞を形成することに成功されました。またこの破骨細胞形成は PKA シグナリングの阻害剤である H89 により阻害され、促進剤である forskolin によって亢進することから PKA シグナリングを介することを明らかにされています。

このように今まで歯肉上皮に発現する因子は、抗菌因子や接着因子という組織防御にかかわる因子が多いところ、RANKL や TNF- α といった組織破壊にかかわる因子も発現・機能し、防御・破壊という二面性をもつ組織であることを明らかにされました。そして今後、その生物学的役割を詳細に研究することにより、歯周病の予防や治療に役立つ知見を提供できるのではないかと示唆をいただきました。こうした一連の基礎研究結果から、さらなる上皮、歯周病態の把握そして臨床への還元と研究の醍醐味・重要性を若手研究者・臨床家の方々にも存分にお伝えいただきました。

今回は、15 大学から 40 名以上の多くの参加者にお集まりいただき、講演後も活発な質疑応答が交わされ、盛会のうちに閉会いたしました。最後に、ご協力いただきました関係各位、前世話人の日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座の伊藤 弘先生、および大会長西村英紀教授、準備委員長 讃井彰一先生に謝意を表します。

世話人 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
歯周病学分野
白方良典

編集後記

今回の2017年11月発行のニュースレターでは、この4月から日本歯周病学会理事長に就任された栗原英見先生から、本会60周年記念大会の大会宣言（京都宣言）である「歯周病撲滅に向けて！」の意義が述べられています。東京国際フォーラムで山田 了元理事長を大会長として、日本歯周病学会50周年記念大会が開催されてすでに10年が経過しようとしています。今回、10年の歩みと社会情勢の変化のなか、栗原理事長の日本歯周病学会の進むべき方向性についてのお考えを知る良い機会と考えます。また本会60周年記念大会から、本会会員制度の正会員・準会員の導入に伴い、学会参加受付に会員証が必要となります。どうぞお忘れなきようご持参ください。

さらにニュースレターには、第61回春季日本歯周病学会学術大会の案内が掲載されております。久しぶりの東京開催で、齋藤 淳大会長の下、中身の濃い内容で企画されております。その他、認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ、吉江弘正先生のAAP名誉会員推挙のお知らせ、各賞受賞者紹介、各賞および奨学金助成募集の案内等々、多くの報告も掲載されております。ぜひご一読ください。

さて2016年の歯科疾患実態調査によると、8020運動の成果ともいえるべき、80歳で20本以上の歯が残る高齢者の割合は50%を超えることがわかりました。しかしその一方で、歯周病管理が困難な高齢者において4mm以上の歯周ポケットの残存する割合が増加していることも明らかとなりました。日本歯周病学会としては、大きな問題に違いありません。本会60周年記念大会で宣言される「歯周病撲滅に向けて！」に、真剣に取り組む必要があると考えられます。

2010年から2011年にかけて「生きがいを支える国民歯科会議」が国立長寿医療研究センター総長の大島伸一先生を議長として、歯科医療の意義やあり方を考えることを目的に各界の有識者によって3回開催され、最終的提言がまとめられています。この提言では、これまでの「治す歯科医療」から「治し、支える歯科医療」への転換が謳われています。歯周病治療では疾患の治療はもとより、治療後の病状安定を患者とともに進めています。国民が求める歯科医療の意義、あり方を理解しつつ、今後の進むべき方向性を見据えて日本歯周病学会が一丸となり、歯周病撲滅に向けて！邁進して参りましょう。

広報委員会委員長 佐藤 聡